

映像・音楽の著作権管理 ①

ブロックチェーンの可能性

海外ではブロックチェーンを使い、映像音楽の著作権の一括管理への取り組みが進んでいる。ブロックチェーンは、すべての取引を改ざん不能な形で記録・開示し、第三者にも公開することで信頼を共有できるシステム。金融分野での活用が進む一方で、デジタルコンテンツ分野における著作権管理での利用が期待されている。ブロックチェーン技術の概要と著作権管理における有用性、海外でのサービス事例などを示す。

★海外実務を参考に

内閣府の規制改革推進会議は6月の第3次答申で、放送に関していくつかの方針を示した。それは、放送通信融合時代に向け、①効率的な権利処理を実現するため、放送事業者等の利用者の意見を聞きながら権利情報データベースの実証事業（権利情報データベースの構築、当該データベースを活用した権利処理

プラットフォームの構築）を進める②権利情報の集積状況を踏まえつつ、総務省、経済産業省の協力を得ながら、著作権制度に整合性をとった改革について、総務省が放送コンテンツの流通インフラ整備を含めその他の課題について、関係府省が必要な

多様な2次利用のニーズが顕在化

備の必要性や課題を、関係府省が必要な取組をする。その際、ブロックチェーン技術、AI技術を活用した海外実務を参考に、先のような問題も解消に向かうだろう。

このブロックチェーンとブルーフォアワークという分散アルゴリズムとフトウェアの組み合わせにより、悪意のある攻撃者の書き換え、2重支払いを防ぐことが可能になっている。

従来の金融機関のように中央管理機関が存在している通貨システムである取引台帳にその情報を更新する。そのためにはシステムの2重化や多くのデータ監査人、バックアップ人員を動員して物理的高コスト高信頼システムであった。

一方、P2Pのネットワーク上で動作するブロックチェーンのシステムでは、参加者間でトランザクションが行われるとその情報がネットワーク全体に伝播し、ネットワーク内にある「採掘者」という、サーバーシステムとは逆の発想になっている。

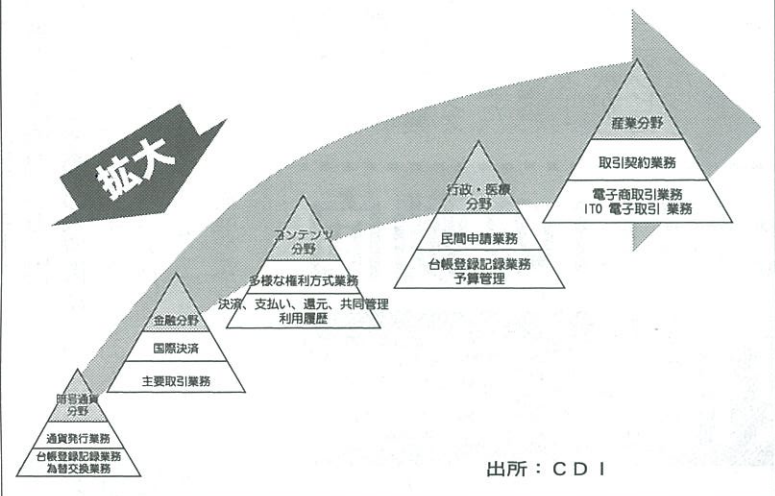
求められる包括的権利処理システム コンテンツごとに配当還元を自動化

ブロックチェーン技術はその構造上、従来の集中管理型のシステムに比べ、『改ざんが極めて困難』であり、『実質ゼロ・ダウンタイム』という、データの信頼性では従来の高価な多重化サーバー並の安全なシステムをウェブシステム並みに『安価』に構築可能という特性を持つ。

★システムをオープン化
ブロックチェーンはシステムをオープン化することで、ウェブシステム

分散され、永遠保管されるブロックデータによる取引記録が改ざんされにくく、トレーサビリティが詳細にとれる。それにより企業間の取引さえ、自動化、ペーパーレスにいくことを可能にしている。
(コーポレートディレクション 奥村文隆)

図：社会基盤として期待されるブロックチェーン



制作会社の間などで、著作権の無償譲渡や2次利用に伴う収益の不配分が問題となる。ビットコインから独立したブロックチェーン技術は2009年、ビットコインなどの暗号通貨の取引への利用から生まれた。ビットコインの発明の本質は、いかなる中央機関も存在しないP2Pネットワーク上で「台意」の形成をし「信頼」の構築を可能にしたことだ。

そのシステム上、番送金の事実についてブロックチェーンと呼ぶ連鎖した取引台帳を残し、ネットワークへの参加者間で共有・管理。その台帳を「正」とする合意形成を実現することで、ネットワーク上に「台意」「信頼」↓「通貨」を実現した。

このブロックチェーンとブルーフォアワークという分散アルゴリズムとフトウェアの組み合わせにより、悪意のある攻撃者の書き換え、2重支払いを防ぐことが可能になっている。

従来の金融機関のように中央管理機関が存在している通貨システムである取引台帳にその情報を更新する。そのためにはシステムの2重化や多くのデータ監査人、バックアップ人員を動員して物理的高コスト高信頼システムであった。

一方、P2Pのネットワーク上で動作するブロックチェーンのシステムでは、参加者間でトランザクションが行われるとその情報がネットワーク全体に伝播し、ネットワーク内にある「採掘者」という、サーバーシステムとは逆の発想になっている。

ブロックチェーン技術はその構造上、従来の集中管理型のシステムに比べ、『改ざんが極めて困難』であり、『実質ゼロ・ダウンタイム』という、データの信頼性では従来の高価な多重化サーバー並の安全なシステムをウェブシステム並みに『安価』に構築可能という特性を持つ。

分散され、永遠保管されるブロックデータによる取引記録が改ざんされにくく、トレーサビリティが詳細にとれる。それにより企業間の取引さえ、自動化、ペーパーレスにいくことを可能にしている。
(コーポレートディレクション 奥村文隆)